

現在の建物計画案について

1 新病院 I 期棟の施設規模（予定）

新病院の病院機能として必要な延床面積の合計は以下の理由により約58,500㎡として計画しています。

【医療法遵守】 病室面積や廊下幅等の現行医療法への適合のため、旧医療法適合の現病院よりも必要となる床面積が増加します。

【医療の高度化等への対応】 高度急性期医療対応、感染症対策、災害対策などの実現には現病院の課題を是正し、より良い医療の提供のために必要な面積を確保する必要があります。

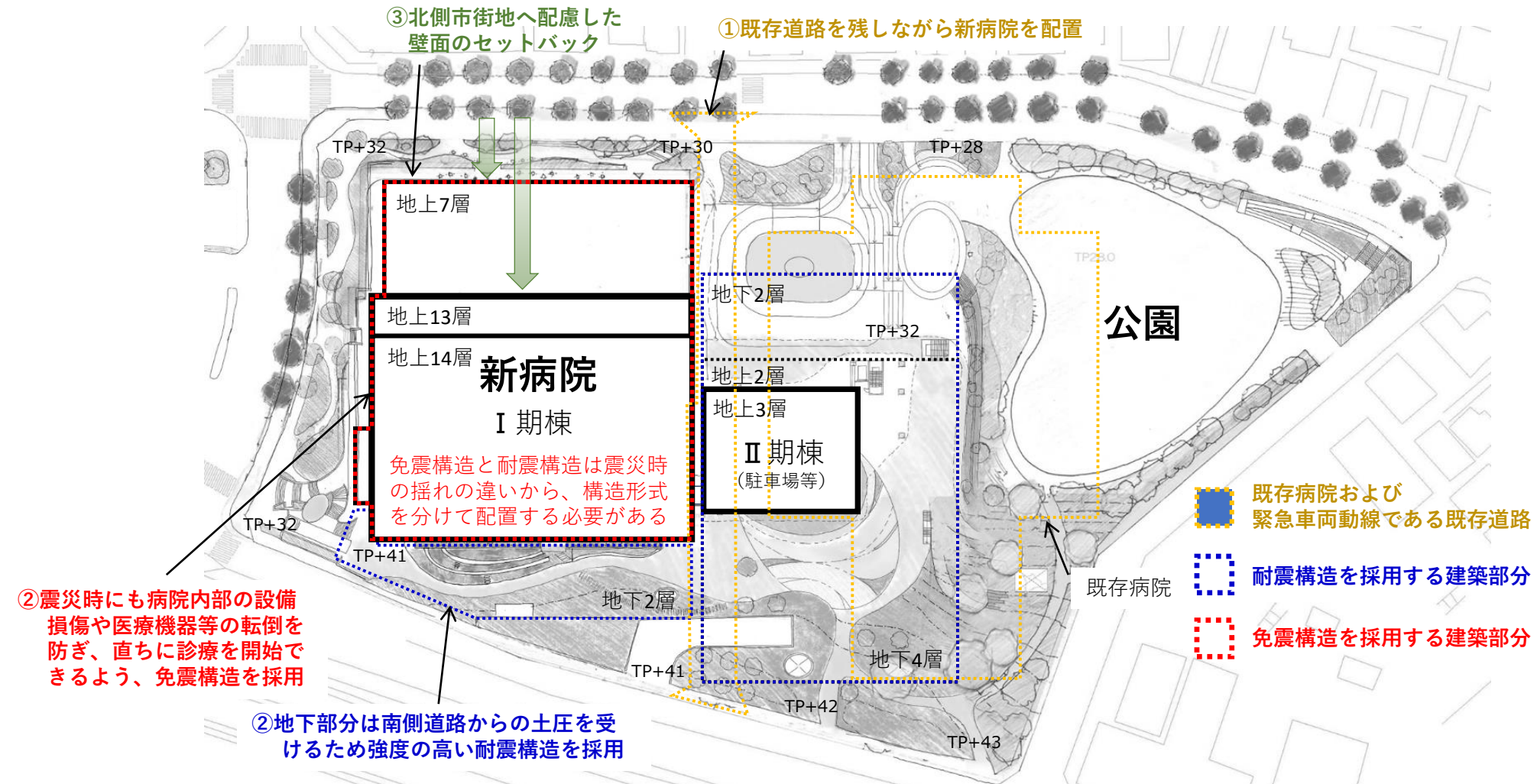
部門種別	構成例	既存病院 (㎡)	新病院 (㎡)	変更概要（最近の他病院の傾向や体制も参考）
病棟部門	一般病棟・救急病棟・ その他病棟	12,700	23,900	<ul style="list-style-type: none"> ・医療法改正遵守のため、病室床面積を4.3㎡/床以上から6.4㎡/以上に増加。 ・急性期患者の受入れ強化のため、全体病床を再編しICU病棟等の高機能病床を適正数増床。 ・患者環境の向上や病棟内での感染防止のため、病室構成を6床室を解消（4床室、個室化）。 ・ベッド周りの治療用医療機器など診療に必要なスペース確保のため、ベッド周りスペース是正。 ・病床数は既存(584床)と同等数程度を計画
外来部門	一般外来・救急外来・ 患者サポートセンター	2,600	3,100	<ul style="list-style-type: none"> ・高度医療含めた医療機器の大型化や台数増加で狭隘化したため、適正なスペース確保。 ・急性期患者の受入れ強化のため、救急部門の診察室や処置室の適正なスペース確保。
診療部門	手術・検査・放射線・ リハビリ・化学療法等	5,000	9,000	<ul style="list-style-type: none"> ・高度医療含めた医療機器の大型化や台数増加で狭隘化したため、適正なスペース確保。 ・急性期患者の受入れ後の適切な手術対応のため、手術室数を適正数確保。
供給部門	薬剤部・中材・輸血・ 厨房・洗濯・霊安等	1,900	3,400	<ul style="list-style-type: none"> ・高度医療に対応するための検査機器等の大型化や台数増加で狭隘化したため、適正なスペース確保。
機械部門	機械室	1,600	3,600	<ul style="list-style-type: none"> ・建築物省エネ法の改正（2023年4月）等、法的基準の建物性能の確保のため、適切な機械室内のスペース確保。
管理部門	事務受付・サーバ室・ 会議室等	2,500	2,500	<ul style="list-style-type: none"> ・上記の医療関連部門の運営を円滑に行うため、現状と同等程度の必要面積を確保。 ※スタッフ用更衣室などは既存病院、新病院ともに本計画区域外の別敷地建物内に配置
利便部門	売店、飲食等	300	400	<ul style="list-style-type: none"> ・患者の利便性に加えて地域へ開かれた病院を目指し、駅前や谷本公園周辺プロムナードに面してにぎわい施設を計画。
共有部門	廊下・階段室・EV・各 階設備(PS・DS・EPS) 車路等	3,700	12,600	<ul style="list-style-type: none"> ・医療法改正遵守のため、（片側に部屋がある場合）廊下幅1.2m以上から1.8m以上に増加。 ・現病院ではエレベーターやエスカレーターが極端に不足し、混雑渋滞となることで改善を望む声も多いため、移動に適切な台数を確保。
合計		30,300㎡	58,500㎡	
※参考	：高さ	約41m	約60m	

※詳細内容は今後関係機関との協議の上、変更する場合があります。

2 新病院の配置計画イメージ

新病院 I 期棟は以下の理由により下図の配置計画となります。（項目番号は下図と対応）

- ① 建替え中の既存病院の医療機能継続のため、緊急車両動線かつ施工上の配慮が必要となる地中埋設物がある既存道路を残しながら、新病院を建設します。
- ② 構造計画について、病院の主要な機能は震災時の医療機能維持のため免震構造を採用し、一方、緑地広場の地下部分一帯は敷地南側の道路面との高低差が大きく土圧が生じることから、強度の高い耐震構造を採用します。
- ③ 北側市街地への圧迫感の低減に配慮し、I 期棟高層部は低層部よりもさらにセットバックする計画とします。



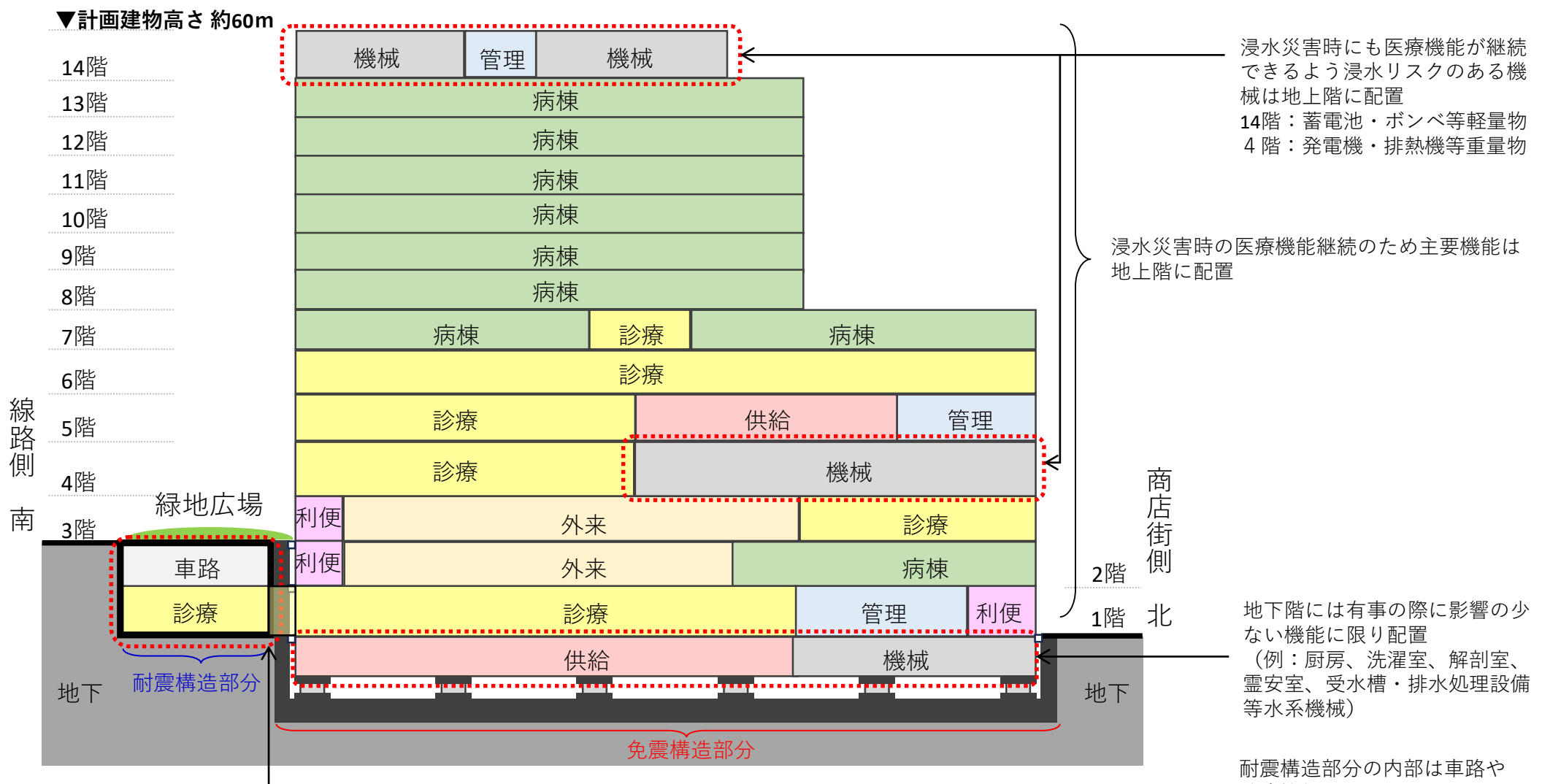
※詳細内容は今後関係機関との協議の上、変更する場合があります。

3 新病院 I 期棟の建物構成（機能配置の考え方）

必要な施設規模と配置計画から合理的なフロア計画とし、以下の機能配置上の条件も考慮し、新病院 I 期棟の計画建物高さは約60mとなります。

【浸水リスク回避】 横浜市のハザードマップでは、病院敷地の西側・北側部分が内水による浸水想定区域とされており、災害拠点病院としての機能継続のため、診療機能等は地上部に配置します。一方、地下階は浸水の影響が少ない機能を可能な限り配置し活用します。

【構造形式に応じた機能配置と地下活用】 災害拠点病院としての機能継続のため、主要な医療機能は免震構造部分に配置しつつ、発災時に影響の少ない一部の診療機能（災害時には使用しない）は耐震構造部分である南側の緑地広場下に配置し、地下空間も活用します。



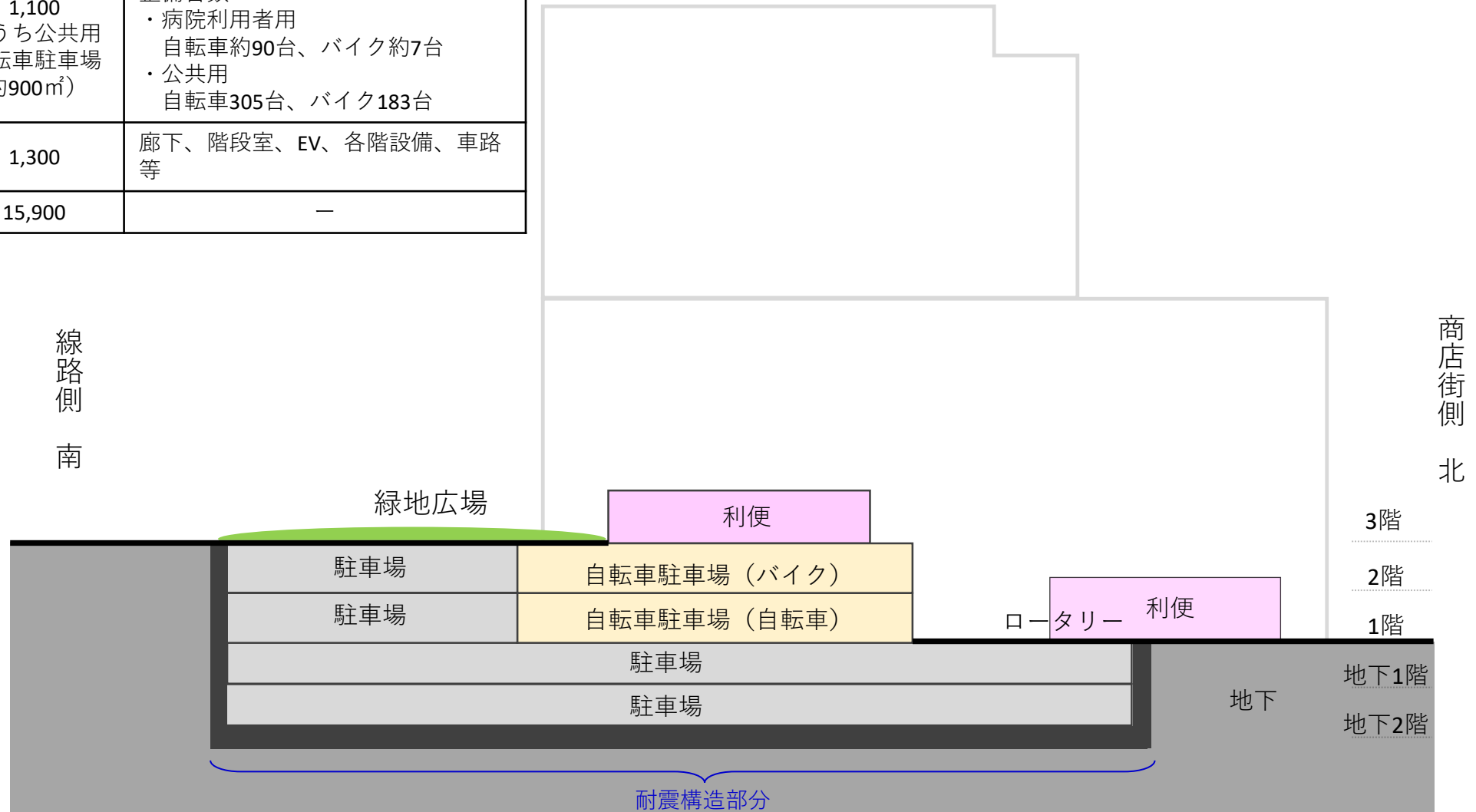
【I期棟の南北断面イメージ】

※共用部門は各階機能に配分済み

※病院内部の機能配置を示すための断面イメージになります。詳細内容は今後関係機関との協議の上、変更する場合があります。

4 新病院Ⅱ期棟の建物構成（予定）

機能	面積（㎡）	備考
利便部門	1,100	にぎわい・交流施設や生活利便施設
駐車場	12,400	整備台数：計290台
自転車 駐車場	1,100 （うち公共用 自転車駐車場 約900㎡）	整備台数 ・病院利用者用 自転車約90台、バイク約7台 ・公共用 自転車305台、バイク183台
共有部門	1,300	廊下、階段室、EV、各階設備、車路等
合計	15,900	—



【Ⅱ期棟の南北断面イメージ】

※共用部門は各階機能に配分済み

※詳細内容は今後関係機関との協議の上、変更する場合があります。